

若冲展とサービス産業

若冲展

4月22日～5月24日まで上野の東京都美術館にて生誕300周年記念若冲展」が開催されていました。連日の大盛況で、2時間待ち、3時間待ち等が常態化していたようです。主催者側は、一日1万人位との予想が後半は1.7万人にもなりそうだとかで、興行的には大成功だったようです。何でも、5月18日（水）はシルバーデーで高齢者（65歳以上）無料とかで320分待ちの行列になったんだとか。まあ、大事故が起らず、何よりでした。

もう少し暑くなっていれば、熱中症でダウンする人が続出したことでしょう。

また、3時間行列に並んでやつのことで入館、混雑する中で展示物をしっかり見ようとするれば3時間位は掛かるでしょう。ロスタイムも計算すれば、所要時間はざっと7時間でしょうか。この間、立ちっぱなしですから、緻密な若冲の絵を見た感動でそれほどでもなかったのかも知れませんが、肉体的には大変、お疲れになったことと拝察させていただきます。

それにしても、何とかならないものですかね。若冲展の行列！

行列を我慢できなくて

そんな混雑情報も知らずに、本物の芸術に触れようと意気込んで、15日（日）の9時に到着。入場待ちの列の待ち時間が3時間と聞き、一旦は、折角来たのだからとチケット売り場へ移動。チケット待ちの時間を聴くと30分待ちだとか、都合、3時間半待ちと計算ができたことから、すぐに断念。

幸い、上野は東京都美術館の他にも西洋近代美術館や国立博物館などもある場所ですので、他の展示会にでも行こうとぶらぶら、偶々、最初に見つけたのが国立博物館の黒田清輝展でした。こちらは展示最終日でしたが、殆ど待ち時間が無く、入館でき、それなりに芸術に触れたいという目的は達成できました。

行列を無くせばサービス産業が潤う

大きな博物館や美術館は公営でしょうし、私営なら多くは大企業の所有でしょう。金儲けのための展示会主催とは考えにくいことから、対策として映画館や劇場のように日時指定の予約制が考えられます。これでは、多数の来場希望者の需要に対応できない、出来るだけ多くの人に観ていただきたいということであれば、来場者に行列させるのではなく、時間帯指定の整理券を配布するとか、時間が来れば携帯かスマホに連絡があるとかのサービスがあれば、無駄に行列に時間を費やすことも無くなります。

上野であれば、動物園も不忍池もアメ横、他にもあります。

これからの日本は、GDPに占めるサービス産業のウェイトがさらに高くなって行かざるを得ず、どうやって、サービス産業を振興するかを考えなくてはなりません。サービス産業

界は連携して、一旦街に出れば夜まで帰さない工夫、行列を無くして時間を潰させる工夫等を行えば、消費が増え、サービス産業の付加価値が上昇します。

話は変わりますが、シルバーデーは考え物です。同じ無料招待するなら、若冲展に来られるような元気でお金を持っていそうなシルバー層よりも、感受性豊かな小中高の生徒を招待して、本物の芸術を見せてあげた方が、日本の芸術文化、日本の社会の発展に繋がると考えられます。

これは、Twitter で見つけた文章です。

「若冲展は嫌いになっても伊藤若冲は嫌いにならないでください。」